

# 図書館 だより



Fuji Women's  
University Library

## 古文書をさがす旅と図書館

文化総合学科 松本あづさ

文化総合学科に所属している私の担当は日本史ですが、とくに江戸時代の北海道史を研究しています。こうした研究テーマは大学進学前から考えていたものではなく、大学生活のなかで少しずつ惹かれていったものでした。

私は、大学・大学院生活を北海道大学で過ごしましたが、最初の1～2年間はかなりぼんやりと過ごしていました。もちろん大学院進学など考えてもいません。そんな私を研究の世界に引き寄せたのは、授業で出会った「古文書」です。北大の附属図書館には「北方資料室」という北海道史関連の古文書が多数所蔵されている一室がありました。その北方資料室の古文書が、「古文書演習」という授業で頻繁に取り上げられていたのです。

“和紙に墨”で書かれた、同じ日本語とは思えない文字。最初のうちは全く読めません。ただ、「同じ日本語だから読めるはず」と思って毎日眺めていると、だんだん文字の形が見えてきます。そして、私にとって大きな発見となったのが、くずし字も書き手によって筆跡が異なるということでした。現代人の筆跡が一人ひとり個性的であることを考えると当たり前なのですが、江戸時代人の個性に触れられたような気がして感動しました。字の上手い・下手、豪快な字・几帳面な字、急いで書いた字・心をこめて書いた字…などなど、古文書1点1点が個性的なのです。

## CONTENTS

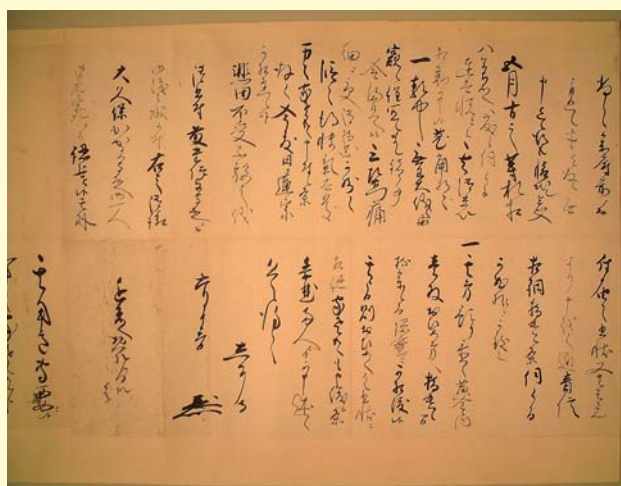
1. 古文書をさがす旅と図書館  
文化総合学科 松本あづさ
4. 教員著作紹介
6. 図書館委員会からのお知らせ
7. 図書館からのお知らせ
8. 図書館資料Navi 第4回  
英語文化学科 伊藤義生

No.88

2014.10

こうした当たり前のことに気付いてからの古文書に接する時間は、「自分と同じような普通の人びとが江戸時代にもたしかに生活していた」ということを実感できる時間でもありました。それは、有名人ばかりが登場する歴史の教科書からは得られない気持ちでした。

江戸時代人を身近に感じるようになると、辞書を片手に古文書解読の勉強にのめり込みました。私自身は出不精で面倒くさがりの性格ですが、様々な古文書講座に参加したり、さらには古文書の師匠との出会いを求めるようになりました。大学の恩師はもちろんのこと、北海道開拓記念館の学芸員の方々にもたくさん教わりました。今ふり返ると、本当にやりたいことがあると、人は自然と突き動かされるものなのだと思います。あの頃の自分は自分ではないようです。



「松前藩主の書状」も北海道に残る古文書の一つ（北海道開拓記念館所蔵・近藤家資料「錦地巻物」より松前矩広書状）

さて、少しずつ独力で古文書を読めるようになると、自分の研究テーマに関する古文書を求めて、道内・道外・海外の図書館に出向くようになりました。いわゆる「史料調査」です。与えられたテキストを解読する作業から、自分の研究テーマに沿った古文書を探して、解読し、論文にまとめるという段階へ移行したのです。こう書くと順調そうですが、楽しく読むだけの段階から論文という成果をあげなければならなくなったため、苦しくもありました。

私の研究テーマは北海道史なので、史料調査の場は道内が中心となります。一番通ったのは、やは

り北大の北方資料室で、授業の合間を利用しつつ、大学院生時代は毎日のようにお世話になりました。

ただ、史料が道外・海外にあればそれを求めて遠出することもあります。例えば、2012年に発刊された『新厚岸町史 通史編第一巻』で、私は1820～50年代の厚岸のことを執筆させていただきました。道東の一地域に関する幕末の約30年間の歴史です。この地域のことが記された史料を求めて、北海道立図書館や函館市中央図書館など道内の図書館のほか、東京大学史料編纂所・神奈川県立歴史博物館・長崎歴史文化博物館といった道外の機関、さらにはオーストラリア連邦NSW州立図書館というシドニーの図書館に足を延ばしました。



NSW州立図書館

このうち、大変だった記憶が鮮明にあるのは、2008年におこなったシドニーでの史料調査です。なぜシドニーでの調査の必要があったかと言うと、幕末の厚岸に漂着したオーストラリア船籍の捕鯨船について調べるためでした。NSW州立図書館には、捕鯨船の航海日誌が所蔵されていたのです。ただ、英語が苦手な私にとって、はじめての単独海外旅行でもあったので、なかなか苦勞の多いものとなりました。

なんとか辿りついた図書館では、吹き抜けのフロアを洋書が360度ぐると床から天井まで取り囲むという、外国の図書館らしい光景に感動しました。その後は、いよいよ司書の方への資料請求ですが、ひどい英語で司書の方を散々困らせてしまい、筆談をまじえながらの請求になりました。事前に、メール

を介して調査許可を得ていましたが、スムーズにはいかなかったのです。やっとお目当ての捕鯨船航海日誌に出会えても、それがマイクロフィルムという形態で保存されている場合、専用の機械を操作して閲覧しなければいけません。その操作も日本とは勝手が違ったため、通りかかの方に身振り手振りで教えていただくことになりました。まさに「旅の恥はかき捨て」状態です。

調査期間は3日間しかなかったため、毎日朝から閉館時間まで粘りました。ホテルと図書館の往復だけでクタクタになりそうな気もしますが、あの時は「せっかく来たシドニーだから」と、朝はオペラハウスや王立植物園を通して図書館へ向かい、夜もまたオペラハウス近くでアイスを食べ一服してから帰るということを繰り返していました。わずかな時間ではありますが、観光も史料調査の醍醐味です。

こうして、あっという間に帰国前夜を迎えましたが、お目当ての史料データを無事にスーツケースに収められた時は心底ホッとしました。危なっかしい史料調査ではありましたが、今でも不安なことがあると、「あの時なんとかなったのだから、とりあえずやってみようかな」と、励みになる出来事にもなっています。

さて、幕末の厚岸に漂着したオーストラリア捕鯨船の乗組員は、船が座礁してしまったため、日本の船で函館から長崎まで送られ、そこからオランダ船で帰国の途につくことになりました。そのため、この一件に関する古文書は函館や長崎にも残っています。このうち、長崎には古文書だけではなく、長万部沖で亡くなってしまった捕鯨船乗組員のお墓があるということで、外国人墓地を有するお寺でも調査させていただきました。結局、お墓を発見することはできなかったのですが、この調査の合間に長崎ちゃんぽんやカステラという長崎名物を御馳走になってしまいました。古文書をさがす旅のなかで、各地の図書館司書の方にはいつもお世話になっていますが、こうして温かく調査を見守ってくださる方々に出会うことも度々あります。歴史研究というと、机にへばりついているイメージもあると思いますが、

実際はこのような旅の経験も研究の世界に惹かれる大きな要因になっています。

最後に、古文書の調査方法について少し触れたいと思います。主な調査方法には、① 古文書の筆写、② カメラによる古文書の撮影、③ 図書館が作成した古文書複製本のコピー、などがあります。古文書を読み始めたころは、デジカメを持っていなかったため、ひたすら原稿用紙に筆写していました。その後、デジカメを購入してからは、撮影許可がおりれば、古文書を撮影し、自宅でじっくり読むという作業をしています。

以上のほかに、最近では多くの機関がデジタルライブラリーを開設し、オンラインで様々な古文書を閲覧できるようになっています。これが私の学生時代とは大きく異なる点で、札幌にいながら、各地の古文書を見られることはとても便利です。しかし、時間をかけて旅をして、やっと着いた図書館でお目当ての古文書に出会える…。大変と言えば大変ですが、そのような旅も含めた調査を通して得られる感動は、これからも味わいたいと思っています。

ただ、最近少し感じていることは、学生のころの方が、古文書に接した時の感動が大きかったかな…ということです。信じていただけるかは分かりませんが、「若い感性」ってやっぱりあるようで、本物から得た感動をすぐにエネルギーに変える力は数年前の自分に叶わない気がしています。学生のみならず、ぜひ今のうちに欲張るだけ欲張って、興味のある分野の「本物」に出会ってくださいね。

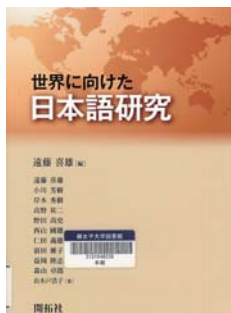


閉館直後のNSW州立図書館（ミッチェル・ウィング）



# 教員著作紹介

先生方に自著の紹介をしていただきました。図書館には、本館・花川館それぞれに教員著作コーナーがあり、所属学部の先生による2010年以降の著作がまとめてあります。今回紹介した本はもちろんですが、他にも著作物があります。貸出出来るので研究内容を知る機会に、ぜひご覧ください。



## 『世界に向けた日本語研究』 遠藤喜雄編

開拓社発行，2013年11月22日  
所蔵館：本館

英語文化学科  
山木戸浩子

本書には、日本語研究の様々なトピックについて書かれた10の論文が収められており、私は第10章「日本語における形容詞活用語尾の本質について」の執筆を担当しました。日本語の形容詞が名詞を修飾する際に語根につく活用語尾（「白い家」「美しい鳥」等の「い」）の文法範疇は一体何であるのかという問題を出発点に、日本語形容詞の活用語尾全般（上記の「い」以外に、「あの鳥は美しい」の「い」、「速く走る」「壁を白く塗る」の「く」等）の本質を考察しています。その際に、イボ語・オランダ語・ペルシャ語・ロシア語などの世界の言語や日本各地で観察される方言の形容詞と比較し、分析を行っています。私が大学院生だった時にフィールドワークで収集した方言のデータもいくつか紹介しています。

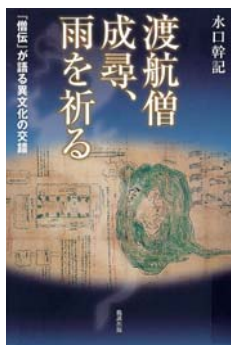


## 新典社研究叢書 240 『和歌的想像力と表現の射程』 ：西行の作歌活動』 平田英夫著

新典社発行，2013年8月29日  
所蔵館：本館

日本語・日本文学科  
平田 英夫

和歌文化が、時代のどのような発想や思想・宗教性と寄り添い、連動して、その表現の幅を拡張させ、その質を深化、多様化させていったのかを、特に西行の役割を中心として明らかにしようとした研究書です。西行は、平安末期の動乱の時代の中で、具体的な寺院や宗派に属することなく、社会に対して宗教活動をしていた、遁世の聖とも言うべき僧でした。当時の聖と呼ばれる人たちは、神仏に関わる多様で雑多な宗教体系の中に身を置いていましたが、そのような聖としての宗教性や社会活動が、西行の和歌表現とどのように呼応し合っているのかに具体的に注目し、西行が、和歌文化にどのような可能性や思想を新たにもたらしたのかを考察しています。



## 『渡航僧成尋、雨を祈る：』 『僧伝』が語る異文化の交錯』 水口幹記著

勉誠出版発行，2013年6月3日  
所蔵館：本館

日本語・日本文学科  
水口 幹記

11世紀に一人の僧が密航同然に日本から中国（北宋）へ渡りました。その人の名は成尋。当時、62歳。高齢の母を日本に残し、まさに命がけの渡航でした。彼の目的は仏教の聖地天台山と五台山を巡礼すること。その様子は、彼が書き残した渡航記『参天台五臺山記』に詳細に描かれています。その中に、彼が当時の皇帝から頼まれて雨乞いをした記述が残っています。これを読むと、彼がどれほど凄い人なのか、皇帝からどれほど敬われたのかが伝わってきます。しかし、彼の雨乞いの記録は、なぜか中国には全く残されていません。一体これはどういうことなのでしょう？ この疑問を起点として、成尋の行った雨乞いを日本・中国における祈雨の歴史と方法、真言宗と天台宗の祈雨、そして、高僧伝と成尋の記述との関連性など多方面から論じることによって、「書く」とは？、「異文化理解」とは？、という問題に踏み込んで論じています。是非、ご味読あれ。



## 『フューチャースクール×』 地域の絆@学びの場』 藤女子大学人間生活学部公開講座シリーズ [イッカルンクル]

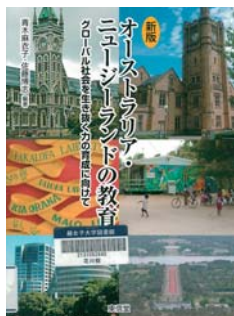
伊井義人監修  
藤女子大学人間生活学部公開講座委員会発行，  
2014年7月10日  
所蔵館：両館所蔵

人間生活学科  
伊井 義人

この本は、人間生活学部公開講座をもとにしたイッカルンクル・シリーズで「石狩」を紹介する三冊目の書籍となる。今回は、教育を主題として、ICT（情報コミュニケーション技術）機器を活用している「未来型」小学校や、地域連携を促進している実践事例を紹介している。ここでは、石狩市のような普通の街でも、教育関係者のアイデアや熱意を積み重ねることにより、先進的かつ特色ある教育実践ができることを読者に伝えたいつもりである。

本学関係者として、船木幸弘先生（人間生活学科）には石狩市のNPOと連携した講義の紹介、高橋博先生（食物栄養学科）には高等教育におけるICT活用の今後、伊井は石狩市のへき地小規模中学校における大学生による学習支援についての論稿を執筆している。

『オーストラリア・ニュージーランドの教育：  
グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』  
新版



青木麻衣子、佐藤博志編著

東信堂発行，2014年1月10日  
所蔵館：花川館

人間生活学科  
伊井 義人

留学先としては身近なオーストラリアとニュージーランド。その魅力として、国民の多様な文化背景や、その自然の豊かさに目を奪われがちであるが、両国の学校カリキュラムやそれを支える教育システムは先進性をもち、国際的にも注目されている。

私はオーストラリアの「学校における多文化・多言語教育とマイノリティ」（第三章）を執筆した。ここでは、英語を母語としない移民や先住民の子ども達への教育的配慮を主に紹介している。本書の内容は全体を通して、2010年以降の両国の教育動向に焦点を絞っている。そのため、さらに基本的な教育情報は『オーストラリア・ニュージーランドの教育』（石附実・笹森健編、東信堂、2001年）を参考にしてほしい（本学図書館所蔵：花川館）。

『厚田：引き算で考える北海道の過去と未来  
= ATSUTA Re-Vision for HOKKAIDO



三宅理一、小澤丈夫、角哲 編著

フリックスタジオ発行，2013年12月26日  
所蔵館：花川館

人間生活学科  
三宅 理一

藤女子大学人間生活学部では、石狩市の北にある厚田地区を対象に、北海道大学工学部、サン・カルロス大学建築学部（フィリピン）と共同で2年間にわたって調査研究を行ってきました。本書はその成果を編集し、英文で出版したものです。江戸時代に遡る厚田の歴史、地理的な特徴、施設配置とその問題、産業基盤と新たな施策についてフィールドワークを介して丹念に調べ上げ、厚田の地域力をめぐって総合的に論じています。また、将来ビジョンを見据えた都市計画的提案も最終章に載せました。執筆は大学院生、教員が共同で行い、藤女子大学の地域への貢献をグローバルな角度から示す内容となりました。

『健康と食の安全を考えた食品衛生学実験』  
改訂新版



増田修一編著；  
池田隆幸 [ほか] 著

アイ・ケイコーポレーション発行，  
2013年11月30日  
所蔵館：花川館

食物栄養学科  
池田 隆幸

本書は、大学や、短大、専門学校で、特に管理栄養士、食品衛生監視員、食品衛生管理者を目指す学生や、企業、公共の研究機関で食品衛生学実験に関する技術・手法を学ぼうとする方々を対象とする実習書である。他に比べ、フローチャート、図、表を用いてわかりやすく解説されており、初めて実施する初心者にも分かりやすい構成となっている。私が執筆したのは、微生物試験の一部で、本学食品衛生学実験で行っていないDNAやATPを検出する微生物測定法、腸内細菌科菌群の測定法についても言及した。

食べ物と健康V『食品衛生学』



池田隆幸編著

三共出版発行，2014年3月20日  
所蔵館：花川館

食物栄養学科  
池田 隆幸

食の専門家である栄養士・管理栄養士の活躍の場は、病院における食事の提供、栄養についての患者との対応、学校・事業場などの給食活動、各種食品企業における商品開発と管理、公的機関における食品衛生監視など、それぞれ食品の生産から消費にいたるすべての領域にわたっている。この本で伝えたかった知識は、管理栄養士国家試験に必要な知識だけに留まらず栄養士・管理栄養士を志す皆さんが食の安全確保のためにHACCPやISO22000と呼ばれるような管理システムを職場で運用していく必要が生じたときに基礎になるものである。そのため、広く食品衛生を考える力を養うことができるように、詳しく分かりやすい解説に心がけたつもりである。



## 食べ物と健康 I 『食品の分類と成分』



荒川義人編著；  
松坂裕子、中河原俊治 [ほか] 著  
三共出版発行，2013年10月1日  
所蔵館：花川館

この2冊は主に管理栄養士課程の学生を対象とした「食品化学」の教科書です。昨今、食べ物と健康に関する情報が氾濫していますが、それは実のところ玉石混淆であり、食情報を正しく理解することは必ずしも容易ではありません。

そこで本書では私たちが毎日食べている食べ物にはどのような成分が含まれているのか（「食品の分類と成分」）、そしてどのような意味・機能があるのか（「食品の機能」）を科学的に正しく解説することにしました。とくに近年、生活習慣病の予防のための食事が注目されており、たんぱく質などの栄養素のみならず、ポリフェノールなど非栄養素とされる成分の生体調節機能について、最新の、かつ必要にして十分な知見を紹介しています。

本書の特徴は、「なぜそうなるのか？」をできるだけ平易に、しか

## 食べ物と健康 II 『食品の機能』



中河原俊治編著；  
菊地和美、松坂裕子 [ほか] 著  
三共出版発行，2013年6月1日  
所蔵館：花川館

し正確に説明したことです。従来の教科書では重要項目の提示はありますが、「その食品を食べるとなぜそうなるのか？」についての説明が必ずしも十分ではありませんでした。知識はただ暗記すべきものではなく、なぜそうなるかを理解してこそ役に立つものです。ところが一般に「なぜそうなるのか？」は分子レベルの変化に基づいており、えてして難解になりがちなので、その説明に工夫をしています。

ともあれ本書は物語ではないので高校化学程度の基礎は必要です。そのためちょっと敷居が高いかもしれませんが、食物栄養学科の講義では「これを読んでずっと不思議に思っていたことがすっきり理解できた！」といった感想も少なくありません。

食べ物を健康の維持増進に役立つ「機能」として見る世界をぜひ味わってみてください。

食物栄養学科  
中河原俊治

# 図書館委員会からのお知らせ

### ・2014年度図書館委員

図書館長

木村 信一（文学部・英語文化学科）

委員・文学部

下田 尊久（英語文化学科）

平田 英夫（日本語・日本文学科）

杉内 峰彦（文化総合学科）

委員・人間生活学部

阿部 包（人間生活学科）

小山田正人（食物栄養学科）

青木 直子（保育学科）

### ・2014年度図書館委員会が実行すべき課題

－図書館第Ⅱ期中期五力年計画第二年度の活動－

2012年度図書館委員会に於いて策定した第Ⅱ期計画の二年次は以下の3点を重点課題として取り組みます。

1. 読書推進事業（学生との協働作業）
2. 機関リポジトリの構築
3. ラーニングコモンズにおける学習支援機能の検討

その他、学習基本図書及び電子的資料の整備等に関する継続課題についても整備を進めていきます。



# 図書館からのお知らせ

## 図書館の耐震改修工事について（中間報告）

図書館本館は夏期休業期間中耐震改修工事を実施しました。この間、閉館により利用者の皆様には大変ご不便をおかけしました。

### 主な改修ポイント

- ① 1階事務室跡及び周辺のスペースを統合しラーニング commons を中心とした、アクティブラーニングゾーンとして整備する。
- ② 地下保存書庫部分に集密書架を設置し書庫狭隘化に対処する。
- ③ 事務室の統合  
1階、2階に分散していた図書課事務室を2階に統合し、利用者サービスの更なる向上につとめる。

2階閲覧室及び地下書庫の改修は一部を除き終了し、9月からオープンしました。

1階ゾーンは10月末まで工事予定で、完成後館内の整備を行いオープンの予定です。また、地下ゾーンに増設された集密書庫スペースを活用して資料の再配架を行う予定です。随時HP等でお知らせいたしますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

\* 全館オープンしましたら改めて施設紹介をいたします。

### 施設課さんからのチョット一言

- ① 快適環境「夏涼しく冬暖か」 冷暖房機を設置しました。
- ② 1階レイアウトの改良  
廊下を明るい前庭側に移動、2階閲覧室とは新設の内階段で繋がります。
- ③ デザイン性  
1階廊下との仕切りは曲面のガラススクリーン、床のカーペットは漣（さざなみ）をイメージしています。
- ④ エコ対策 LED照明、窓断熱、外壁外断熱にしました。



カウンターから見た新事務室



耐震補強部分



集密書架増設部分



# オリジナル原稿から 見えるもの

## —F. Scott Fitzgeraldの*Manuscripts*

英語文化学科 伊藤 義生

過日、館員から「アメリカ文学」の請求記号に「A」を付ける本学独自の方式（例：A930）の由来について尋ねられた。しかし、私が赴任した1977年以前からの方式でもあり、今ではその経緯を知る教職員もおらず詳細は不明である。この方式は、受け入れ係の作業が煩瑣になるにしても、「アメリカ文学」であることが直ぐに分かり便利かと思う。

その際、前3回で古書、稀覯本が書誌解題として紹介されている本欄への寄稿を依頼された。私が扱う1920～40年代のアメリカ文学では、それに相当する所蔵資料はないものの、耐震工事のため暫時閉鎖される書庫内を、時には館員の方々の案内を得て全集や資料集を中心に探索してみた。

集密された書物が放つ独特の匂いの中に、アメリカン・ルネッサンス期から現代に至るまで主な作家の全集が海外版や日本での復刻版を含めて相当数揃っており、それに対応する翻訳全集も配架されている。

資料集では、アメリカ1920年代のLost Generationを代表するF. Scott Fitzgeraldの*Manuscripts*全18巻が目



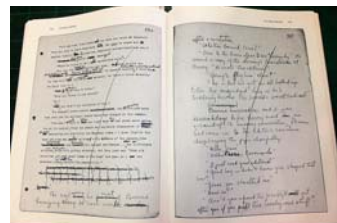
を引く。彼の研究で有名なMatthew J. Bruccoliを編者とし、プリンストン大学等が保管する膨大な手書き、

タイプ、カーボンの各原稿やゲラ刷りを複写し、ハードカバー大判（横約23.5cm、縦約31cm）に装丁したものである。

全18巻のうち、第1巻から15巻までは5つの長編小説が占めている。まず、彼の名を世間に知らしめたデビュー作*This Side of Paradise*には2巻分充てられている。そして、評判があまり芳しくなかった第2作*The Beautiful and Damned*が2巻なのに対し、最も知られている第3作*The*

*Great Gatsby*はThe Revised and Rewritten Galleysが収められた1巻だけなのは意外で、分量的に長編として短いということが分かる。大作ではあるものの、世評は彼の期待を裏切った第4作*Tender Is the Night*には第6巻から12巻までの7巻分が充てられている。うち2巻は当初構想されたMelarky and Kelley Versionに、後の5巻分はThird Version (Diver Version) に振り分けられている。第13巻から15巻までの3巻分には5作目で未完となった*The Last Tycoon*が収められている。この巻の冒頭には最終アウトラインに至る5つのプランが記載され、作品の方向性や意図をうかがい知ることが出来る。そして、第16巻から最終18巻までの残り3巻は、唯一の戯曲*The Vegetable*及びStory Collectionsとして短編やエッセイ風の30を超える作品が収録されている。

この資料集では、各カテゴリーの最初の巻にIntroductionやChronologyがあり、作品の制作経緯等が分かる。各種類の原稿が混在し、その大きさも体裁も様々で、破れや折り目、汚れややすれなどを目にする、そのリアルさが伝わってくる。数多くの抹消線、直しや書き替え、指示などからは作者の呻吟ぶりや息吹が感ぜられ、出版までの膨大な推敲の跡を見ることが出来る。この資料集は完成作品とその原型や制作過程の比較研究に有効であると同時に、その筆跡を辿って作家の生の姿を想像するのも興味深い。



このように本学図書館では作品群に接し、その関連資料にもアクセス可能なので、是非有機的に活用してほしいと願っている。

『F. Scott Fitzgerald Manuscripts』  
請求記号：A938.5 / F29f / 1-6（本館所蔵）

### ● 編集後記 ●

88号は、「古文書をさがす旅と図書館」と題して巻頭言に松本あづさ先生から、図書館資料Navi第4回には「オリジナル原稿から見えるもの—F. Scott Fitzgeraldの*Manuscripts*」と題して伊藤義生先生から、そのほか両学部の先生から自著紹介文をご寄稿いただきました。

初めて利用する図書館の中を巡るということ、それは見知らぬ土地を旅する感覚に似ていると思ったことがあります。始めは配置がわかりませんし、どのようなルールで本が並べられているかも、覚えるまでは難しく感じます。

けれど、苦勞したからこそ、大量にある本の中から目当ての本を探し出した時はもちろん、そばにある思いがけない本との出会いにも心を高鳴らせた経験を思い出しました。

学生の皆さん、ぜひ図書館の中を“旅”してみてください。本の探し方でわからないことがあれば、気軽にカウンター職員に訊いてくださいね。(K)



図書館キャラクター  
「きしんさん」

ケータイから  
本が探せます!



QRコード

藤女子大学 図書館だより 第88号 2014.10  
発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目  
TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770  
<http://library.fujijoshi.ac.jp/>